



日本家族看護学会

Japanese Association for Research in Family Nursing

*International Exchanges Committee
Newsletter - August 2023 Vol. 1 - ①*

■世界の車窓から

(1) 16th International Family Nursing Conference (IFNC16) 参加報告

1. IFNC16 の概要

2023年6月20日～23日にアイルランド（ダブリン）にて開催されました第16回国際看護学会学術集会へ、30か国250名が参加し、日本からは、家族看護学会会員含め20名弱が参加しました。今回のIFNCは“Global Innovations in Family Nursing: Advancing Family health”というテーマで開催され、時代のニーズに合わせた家族看護を、グローバルに、そして創造的に展開していくための魅力的な講演、演題発表が盛り込まれていました。日本からは、山本則子先生が“Case Study to Focus on the Meaning of Care”というタイトルで基調講演を行われました。ケアの意味を見つめる事例研究の方法論から構成、読み手や書き手にとっての事例研究の意味、例を用いた事例研究プロセスの詳細、などについてお話しいただきました。参加者から多くの質問が飛び交い、終了時には拍手が鳴りやまず、関心の高さがうかがえました。また、日本家族看護学会国際交流委員会が企画し、サポートを行った3つのSmall groupから、それぞれポスター発表が行われました。以下に、Small group参加者の感想を掲載しています。国際交流委員会では、今後も会員の皆様の国際交流をサポートしてまいります。



2. 日本家族看護学会 Small group 参加者の感想

2-1. 事例研究グループ（現地発表）

演題名 : Report on support by Nurse Specialists in family health nursing for cancer patients and families treated at Home

わが国の在宅ケアにおける家族支援専門看護師（FCNS）の実践知を、「ケアの意味を見つめる事例研究」の方法論を用いて分析し、ポスター発表しました。参加者からは、日本特有の制度であるFCNSや導き出したメタファーの意味内容に関するご質問をいただき、意見交換いたしました。論文投稿に向けての課題が明らかとなり、今後分析結果を再考し、実践内容の整理をすすめていくことを考えています。

2-2. 文献レビューグループ1（現地発表）

演題名 : Surrogate decision-making among Japanese families: A scoping review

救急・クリティカルケア領域における家族の代理意思決定に関し、特に、“医療者に対する家族の遠慮”という日本特有のテーマについて参加者からご質問いただき、意見交換することができました。今後は論文投稿へ向け、文化的背景による代理意思決定場面の家族支援の特徴について考察を深めていきたいと考えています。

2-3. 文献レビューグループ2（オンライン発表）

演題名 : Assessing and Addressing Parents-Children Family Functioning in Japan: A Scoping Review

日本における「家族機能」のさまざまな尺度が親と子どもの両者において、どのように用いられ、分析されているかをまとめ発表しました。Virtual Onlineでの参加でしたが、画面越しの議論の様子からダブリンでの雰囲気を感じることができ、非常に貴重な経験となりました。今後もグループメンバーとディスカッションを深め、論文投稿へ向け準備を進めたいと思います。

国際交流委員会メンバー：●委員長：本田順子

●委員：相墨生恵、島田なつき、中口尚始、新家一輝、森崎真由美、山口智治



日本家族看護学会

Japanese Association for Research in Family Nursing

International Exchanges Committee
Newsletter - August 2023 Vol. 1 - ②

■委員会だより

国際家族看護学会のアフリカ支部から
ペトラ先生が来日されます！

(1) 第30回学術集会 国際交流委員会企画

「急性期領域における家族の意思決定支援 日本とアフリカの比較から見えるもの」のご案内

第30回学術集会の交流集会では、急性期領域での家族看護について日本とアメリカの現状や課題を共有し、参加者とともにディスカッションを行います。話題提供者として日本から家族支援 CNS の藤井淳子先生、国際家族看護学会のアフリカ支部からペトラ先生をお招きします。発表内容は日本語訳もありますので、安心してご参加ください。

1. 日本の急性期領域における家族看護について（藤井淳子、家族支援専門看護師）

家族間のコミュニケーションの促しや、医療チームや家族間での治療や目標についての合意形成といった場面における日本の急性期領域での家族看護の難しさを踏まえ、家族支援専門看護師として実践する具体的な介入をご紹介します。

2. アフリカの急性期領域における家族看護について

（Dr. Petra Brysiewicz, クワズール・ナタール大学教授）

南アフリカや他のアフリカ諸国の様々な急性期医療の現場で行われた研究から、アフリカ大陸における家族の定義や家族に焦点を当てたケアの独自性をご紹介します。また、家族看護の具体的な介入例から、資源に乏しい多文化環境において家族看護を実施する際の課題をご紹介します。

日時：9月9日（土）15:00～16:10

場所：第3会場（2階 会議室3）

★企画のさらなる詳細は、下記の学会ウェブサイト掲載の案内をご覧ください。

<https://jarfn.or.jp/work/doc/kokusai/20230909-kokusai.pdf#view=Fit&page=1>

■活動紹介

(1) 2023年度 Small Group の進捗報告

今年度も、国際交流委員会で新たな Small group 活動メンバーの募集を行い、12名の方が、5月16日（火）に行われたキックオフミーティング（オンライン形式）に参加されました。国際学会で発表したい、家族看護のネットワークを作りたい、海外の研究者とのディスカッションしたい、など様々なモチベーションを持った方が集まり、関心のあるテーマや Small group 活動を通じて達成したいこと、などについてディスカッションを行いました。ディスカッションの結果、今年度は、以下の2つのテーマを軸に、活動を進めていく方針となりました。

テーマ①：日本で暮らす外国人とその家族への看護・支援をまとめ、世界に発信してみよう

テーマ②：日本の家族支援の特徴や強みについて調べ、海外に発信してみよう

最終的には15名のメンバーが集まり、7月下旬から8月上旬をめどに2回目のミーティングを計画しています。今後は、3～4名ずつのグループに分かれ、各グループ単位での活動を開始していく予定です。

国際交流委員会メンバー：●委員長：本田順子

●委員：相墨生恵、島田なつき、中口尚始、新家一輝、森崎真由美、山口智治